

マリ共和国と盛岡をつなぐ絆

～TOKYO2020ホストタウン～



昨年8月、市は全国で唯一のマリ共和国のホストタウンになりました。登録をきっかけに生まれた、マリ共和国と盛岡との新しいつながりを紹介します。

【問】スポーツツーリズム推進室603-8009
【広報ID】1030615

マリ共和国ってどんな国？

アフリカ西部に位置する国。サハラ砂漠が国土の3割を占めています。多くの部族が共存し、普段の会話はそれぞれの部族語がほとんど。マリ人は明るく陽気な性格の人が多く、音楽に合わせて踊るのが大好きで、お互いを尊重しながら生活しています。

面積：124万平方キロメートル※日本の約3倍
首都：バマコ
人口：約1908万人
※日本の約6分の1
公用語：フランス語
主食：米
宗教：イスラム教
※全体の約8割



マリ共和国の位置

世界遺産「トンブクトゥ」

マリ国内にある世界遺産のトンブクトゥは、西暦1500年頃に繁栄を極めた都市。サハラ砂漠を利用する流通経路の重要拠点として、交易や学問、宗教の中心地となりました。独特な建築様式のモスクが立ち並び、その時代のイスラム文化の象徴的な都市とも言われています。



「マリ共和国パネル展」を開催！

ホストタウンになったマリ共和国の日常生活や風景の写真を展示します。マリが「知らない国」から「ちょっと気になる国」になるかもしれません！



マリで暮らす人々たち

日本で活躍するマリ人も盛岡を注目しています！

村上 一枝さん

盛岡第二高出身で長年マリ共和国を支援してきた、カラ西アフリカ農村自立協会の代表



ホストタウンをきっかけに、マリ共和国を皆さんに知ってもらえることに感謝です。マリではクーデターが発生し、選手たちは練習もままならない時期を過ごしました。しかし今では、皆さんに会えることを楽しみに、練習に熱が入る日々を送っています。また、マリを知ることで、他の発展途上国も知るきっかけになってくれたら、とてもうれしいですね。

ウスビ・サコさん

アフリカ出身で初めて日本の大学（京都精華大学）の学長に就任。テレビのコメンテーターとしても活躍



サコ学長とママドゥさんからの動画メッセージ▶



ママドゥ・ドゥンピアさん

盛岡で西アフリカの伝統的楽器「コラ」の演奏会を開催
コラ：西アフリカのリュート型弦楽器▶

今年1月に盛岡で演奏できて、とても楽しかったです。マリはクーデターにより国内の混乱はありましたが、人々の生活は続いています。マリをはじめとして、西アフリカには弦楽器や太鼓などいろいろな楽器があります。来年盛岡で演奏会を開くので、たくさんの方に繊細なコラの音色をぜひ聞いてほしいです。

盛岡で開催した演奏会の様子▶
右：ママドゥさん



盛岡からマリへ

アートや食文化で交流

盛岡第二高美術部の生徒たちが、マリ共和国の歴史や文化、風土について調べて、約3.6メートルの壁画※を制作しました。また、生徒たちは、来年に市立武道館（住吉町）などが会場となる柔道の事前合宿で、マリ料理を作ってマリ選手たちに振る舞うなど、食文化を通じて交流を予定しています。

※ジャパンアートマイルが主催した東京2020オリンピック・パラリンピック参加予定国をイメージした壁画作成企画



タイトル「いままでのマリ～これからのマリ～」

マリについて調べて分かったことを壁画に盛り込みました。私たちが思い描く未来のマリの姿をマリの人たちにぜひ見てもらいたいです！



壁画を作成した盛岡第二高美術部の皆さん

マリに女性と子どもの学校を！

マリの貧困や教育問題に支援するため、「マリ共和国学校建設プロジェクト」が進行中

マリ共和国は、新生児と妊産婦の死亡率が世界で最も高い国の一つです。私たちは、村上さんが代表を務めるカラ西アフリカ農村自立協会の支援活動に賛同し、マリに女性や子どもたちが安心して通える学校を作りたいと活動を始めています。この活動を続けていくことで、盛岡から世界を変えていきたいです。



盛岡青年会議所 宮野 祐樹理事長

昭和から平成までの

盛岡市史を編さんします

市は、令和元年度に市制施行130周年を迎えたことを契機として、盛岡市史の編さんに取り組んでいます。現在、刊行されている盛岡市史には、昭和30年ごろまでの内容が掲載されていることから、これ以降の盛岡の歴史をさまざまな資料や写真で振り返ります。

市史は「通史編」と「資料編」、「写真集」の構成で、令和6年度の発行を予定しています。市民の皆さんに親しまれ、まちづくりや生涯学習などに幅広く活用できるものを目指し、編さんしていきます。

【問】市史編さん室 ☎603-8024
【広報ID】1032998

～第1回 市史編さん委員会を開催～

市史編さんのための基本構想などに意見をもらうため、市は「市史編さん委員会」を設置しています。委員は、歴史や産業、教育などの各分野で、詳しい知識と経験のある10人。9月24日には1回目の会議を開催し、基本構想案を示しました。



現在、発行されている盛岡市史は21分冊。昭和25年から56年にかけて刊行されました

～昔の写真をお寄せください～

【募集する写真】盛岡の街並みや暮らしの移り変わりの様子が分かる写真※盛岡市と旧都南村、旧玉山村で撮影し、撮影した年代や場所などが特定できるもの

【提供方法】事前に、市史編さん室に電話かメール（shishihensan@city.morioka.iwate.jp）でお問い合わせください

▶CDは返却しませんが、現像写真は返却します

▶年代や場所ごとに、事前に整理してください

▶アルバムに貼り付けている場合は、台紙からはがしてください

▶CD以外の媒体（USBメモリなど）に保存した写真やネガは募集しません

メールでのお問い合わせはこちらから▶



▲3代目となる駅舎の盛岡駅（昭和39年頃）



▲スケートをする市民でにぎわう高松の池（昭和43年頃）



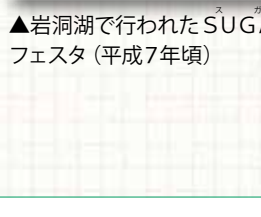
▲歩行者天国が始まった肴町（昭和44年頃）



▲「盛岡川まつり」で踊りを楽しむ市民（昭和52年頃）



▲にぎわう国道4号沿い（平成2年頃）



▲岩洞湖で行われたSUGAフェスタ（平成7年頃）

・当時の街並みや風景
・日々の暮らしの様子
・台風や地震など災害
・当時のお祭り など…

開館30周年 盛岡劇場

【問】盛岡劇場 ☎622-2258

記念事業の紹介

「二兎社「ザ・空気ver.3」そして彼は去った…」

二兎社の「空気」シリーズ、待望の完結編。前2作同様、混沌を深める社会状況や現実の政治とシンクロさせ、今の日本の「空気」をリアルに体感できる舞台を目指します。シリーズ

集大成となる今作では、権力によるメディア支配の総仕上げとして、報道の自己規制が機械的に再生産されていく様子を、恐怖と笑いの中に描きます。



佐藤B作



神野三鈴

【日時】来年2月13日(出)18時～20時、14日(日)14時～16時（2回公演）※終演時間は予定
【チケット】12月12日(出)10時から、同劇場と市民文化ホール、キャラホール、姫神ホールで販売
全席指定5500円、U-25チケット2700円

開館30周年記念展示

盛岡劇場の歩みを振り返る展示を、1階市民ロビーで開催しています。

▶盛岡文士劇あれこれ

【期日】12月27日(日)まで開催中

▶劇団モリオカ市民のこれまでとこれから

【期日】来年1月6日(火)～3月28日(日)



ワークショップ「身体表現ワークショップ～自分の身体と対話しよう～」

ダンスや演劇とも違う、身体表現の可能性を体感するワークショップを開催します。講師は、演劇公演の振り付けやステージングで評価の高

い、「カンパニーデラシネラ」を主宰する小野寺修二さん、藤田桃子さん。無限に広がる想像の世界を創り上げる過程を、一緒に体験してみませんか。

【日時】来年1月23日(出)13時半～17時と24日(日)13時～17時、全2回
【定員】15人※高校生以上 【費用】1000円
【申し込み】電話・窓口：12月23日(火)10時から来年1月8日(金)21時半まで。定員を超えた場合は抽選※12月28日(月)～来年1月4日(月)は休館

写真で見る「もりげきの30年」



▲こけら落とし公演（平成2年）
九代目松本幸四郎（現在の二代目白鶴）と七代目市川染五郎（現在の十代目松本幸四郎）親子による「連獅子」が披露されました



▲もりげきライブ300回（令和元年）
市民と盛岡ゆかりの出演者による「もりげきライブ」は、毎月第3水曜に開催。多彩な音楽で、会場を盛り上げます（本年度は中止）



▲盛岡文士劇復活（平成7年）
昭和24年に始まり、同37年に一度途絶えた盛岡文士劇。盛岡劇場再建とともに復活の機運が高まり、平成7年に第1回公演を開催しました



▲「劇団モリオカ市民」公演
公募で集まった市民と地元演劇人がつくり上げる舞台。「盛岡」をテーマにしたオリジナル作品を、平成18年度から隔年で公演しています